

◆古賀(こが)さんのプロフィール
昭和54年、青年海外協力隊(マレーシア・野菜栽培)の経験を活かして就農。両親と経営の分担を行い、施設きゅうり栽培を担当。昭和61年から平成元年まで、再度、青年海外協力隊事務局に勤め、平成2年から有機農業に取り組みを始め、平成14年、有機JAS認定を取得。現在53aに露地野菜(水菜、オクラ、ごぼう、さといもなど)を年間500品目程度、栽培している。その他、水稲200a、もち米100a、小麦260a(56aを無化学肥料、無農薬で栽培し、販売及び自家用としている)。無農薬で栽培し、平成14年に佐賀県が支援した「サポーター」と自主活動の農作業体験を、サポーターの皆さんと継続しています。



古賀正孝さん、田都子さんご夫婦

◆有機農業を始めた動機
高校時代の同級生から、「自然農法と一緒にやらないか」との誘いを受け、農薬や化学肥料を使わないでおいしく農産物を消費者に食べてもらいたいと考えたことから取組を始めた。

◆こだわわる点や技術
地域で焼却されている麦わらを雑草抑制マルチとして活用し、次作で鋤込みし、土壌改良に利用するなど循環型農業をやっている。



サポーター座談会の料理

◆病害虫対策
有機物による土作りをし、害虫が好む野菜を避け、科の異なる旬の野菜を混植し、害虫は見つけ次第、手で取っている。水田(非有機)では、ジャンボタニシを利用し、除草している。

◆苦勞している点
雑草の発生が多く、除草作業が大変である。また、有機JAS認定に係る記帳・記録に寺間を要しています。

◆家庭菜園で有機農業をやりたい人へのアドバイス
わからないことについて、アドバイスを受けることが出来る人を見つけておくと、害虫や病気が出たときの対応が楽になります。

◆古賀サポーター農園
平成14年、一さが農業・農村ふれあい運動による、れ、鳥の市の消費者などを対象に農作業体験、対象の野菜を使った料理、サポーター持参の料理を楽しんだ。情報交換の機会を深めることを目的として実施され、毎月12名参加しては10名程度参加している。この参加者は、自宅で家庭菜園や畑で野菜を栽培している人や有機JAS認定を目標としている参加者もいます。平成20年3月に活動が認められ、県知事から表彰を受けました。



サポーターの作業風景



サポーターの皆さん

◆これから有機農業をやりたい人へのアドバイス
品種の特性を理解し、作業工程の予測が立てられるようになってから徐々に有機に移行した方が良いと思います。

◆主な販売先
米・麦は農協に出荷。有機野菜はJA直売所、量販店などの他、水菜は大阪の業者に出荷。

お問い合わせ
電話・FAX
0942-182-18673